

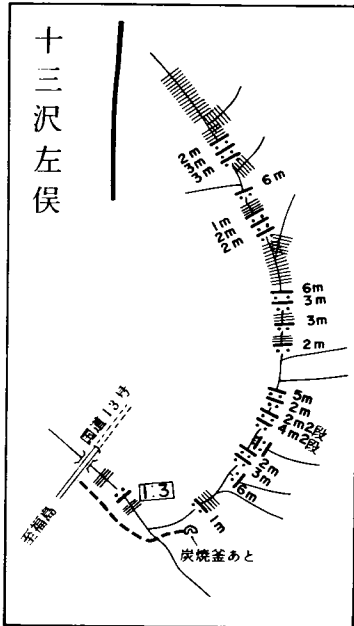
十三沢左俣

上大
一九八六年六月七日

今年になって、初めての沢登りである。福島を一三時に出発。国道一三号線を北上する。

東粟子第一トンネルの入口が十三沢の出合である。トンネルの入口に車を置いて入谷する。

歩き初めて約一分、左俣の出合である。左俣に入っつてすぐに、左岸に炭焼き釜の跡がある。帰りに気がついたのであるが、この釜跡より、国道まで歩道がつい



ていたのである。

沢幅はさほど広くないが、小滝がポツリポツリと、ナメの沢である。

左岸より六段の滝をかけて支沢が合流した先に、熊ならぬ人間が出現。山菜採りに来た人である。

二段の二段滝を過ぎると、二段、五段と続く連瀑である。ホールドがなく、さらにはヌルがついていて、やりにくい。私が中央を強引に突破して、二人を確保し、無事三人登ることができた。帰りは当然懸垂である。同行の小野さんは、初体験。ぶっつけ本番とはこのこと。

この先三段程度のものが、あきることなく出現。沢のほぼ中間のあたりに六段の滝。シャワーで中央を越えられそうであるが、安全を期して左岸に取り付く。

沢に入って約一時間。沢にはだんだんヤブがかぶさり、傾斜もきつくなってきた。源頭と思われる。ここで終了として、帰路につく。

地図から判断すると、どうってことない沢と思われたが、今年初めての沢としては、けっこう楽しめた沢

登りであった。(記・
「タイム」 栗子トンネル入口(一三

四五) ↓左俣出合(一三・五五)
↓終了(一四・五〇)

シン 沢左俣

シ
六

一九八一年八月二九日

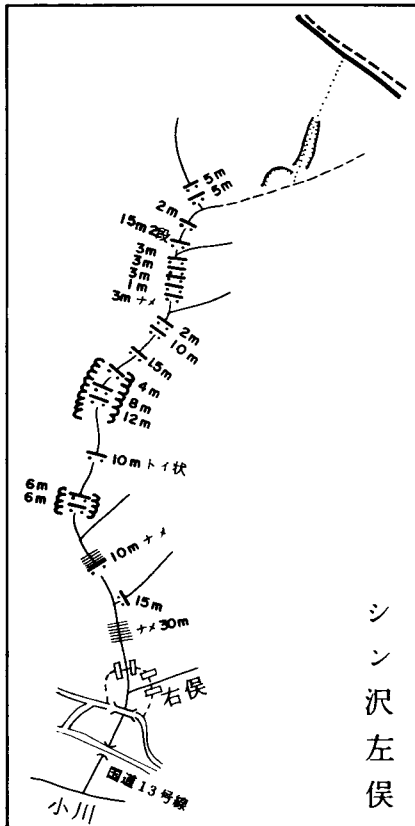
一四時三五分、下降開始。下降を始めて一五分程でガリーになった。これを沢まで下る。沢に降りる所はスラブ状になっており、木を頼りに沢に降り立つ。

ガレ石や倒木に埋まった沢を下ると、二俣に出る。左の方には、五段の滝が二つある。この二俣になって、ようやく沢に水が出てきた。

二俣を過ぎると、すぐ滝が出てくる。一五段二段の滝を除くと、あとは三段程の小さなもので、すべてクライミングダウンでパス。

左岸より小沢が合流した先も滝が続く。F7四段は、右岸より木を

伝いながらのクライミングダウン。F6八段は、左岸よりトラバースして岩棚を下る。続くF5一二段は、そのまま草付きを降りた。しばらく下って、F4一〇段はナメ滝。三段になった滝で、上部と下部が右岸よりにカーブしたトイ状の滝。「流しそうめんにしたら良い所じゃないか」などと話す。ここまでは、



シン 沢左俣